

橋本 智也（はしもと ともや） 大学教育センター・講師

橋本智也氏は、令和 2 年 4 月から高等教育研究院大学教育研究センター講師として本学に着任して以降、(1)「優れた授業の実践」と(2)「本学の教育の充実に資する全学的な活動」を積極的に行っている。

(1)に関しては、全学共通科目（ナビゲーション科目（キャリア・学習デザイン科目と自然と情報）において、学生が大学での基本的な学び方（アカデミック・スキル）を身につけられるように、学生自身が興味関心を持っているテーマについて学び深めていくために、教育方法や教材の開発と教育実践を重ねている。なお、それらの開発や教材の開発と教育実践を重ねている。なお、それらの実践は、本学着任前の教育経験を生かしつつ、本学の学生の特性に合わせて行われている。

(2)に関しては、着任当初から IR 室のメンバーを兼務しており、内部質保証のために教学 IR の各種データ分析を行ってきたほか、遠隔授業が全学的に本格導入されるにあたって設置された「ソフト支援チーム」、全学 FD/SD 事業の企画・運営・司会、部局 FD の講師、本学の教育広報誌『大学教育だより』と全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アンロゾ』の編集委員長としての企画・編集・記事執筆担当、国際会議における自身や本学の教育の取り組みについての発表・紹介、教育開発支援室の学習支援企画、全学の初年次教育の運営等、多岐にわたり本学の全学的な教育の充実に貢献している。

以上のように橋本氏は多岐にわたる多大な貢献が高く評価された。

植松 千代美（うえまつ ちよみ） 理学研究科・准教授

植松千代美氏は本学附属植物園に勤務し、植物園のコレクションを活用した研究を行ってきた。その成果を本学の共通教育・専門教育に還元し、実物や実例を多用した教育を実践することで学生の興味の喚起を追求してきた。

また、氏が最も力を入れてきた担当科目「21 世紀の植物科学と食糧・環境問題」は、言うまでもなく現代の最重要課題の一つである。この授業は、これらの問題に直面せざるを得ない学生達が、科学的・論理的に解決への道筋を自ら考えられるよう、多彩な講師陣を率いて提供されている。

このように、植松氏は一貫して学生の主体的学びを引き出す工夫を重ねてきた。「真に学ぶ」といつか「行動が変わる」と考え、学生達の記憶の中にタネを播くように事業に臨んできた。

さらに講義の参考図書、植松千代美編「都市・森・人をつなぐ一森の植物園からの提言―」（2014 年）の出版や、2018 年には日本学術振興会より「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されるなど、教育の質の高さは折り紙付きである。

以上のように、植松氏は卓越した教育理念と実践に裏打ちされた優れた授業を行ってきたことが高く評価された。